

## ■ 肢体不自由・医療的ケアのある子どもへの実践事例

# 肢体不自由特別支援学校の 学習の場面や医療的ケアの場面における活用

東京都立墨東特別支援学校

河野 聡美

### はじめに

本校は、肢体不自由のある小学生から高校生までが在籍する特別支援学校です。子どもたちの障害の個人差が大きいこと、医療的ケアの必要な子どもたちも多く在籍していることが特徴です。

今年度は、小学部低学年の知的代替の教育課程におけるマルチメディアDAISY図書の活用例を中心に紹介します。

### 本校の環境

本校では、マルチメディアDAISY図書を再生できる端末はiPad 5台と、ノートパソコン1台があります。また、ノートパソコンにディスクを挿入することでマルチメディアDAISY図書を再生することもできます。

iPadは教員が保管庫から借りて各教室で使用します。マルチメディアDAISY図書が入っているノートパソコンは図書館に設置しており、ノートパソコンに挿入するディスクは図書館で貸し出しを行っています。

### 活用実態と様子や効果

#### (1) 子どもの実態

小学部の知的代替の教育課程の1年生の子ども5名の学習グループです。単語やサインなどで気持ちを表出したり、言葉や簡単な文章でやり取りをしたりする子どもたちが在籍しています。認識の面だけでなく、日常的に医療的ケアが必要な子どももおり、身体的な面においても幅広い実態となっています。

#### (2) 取り組み内容と実態

通年で、月に2回程度「としょがくしゅう」という単元を設定し、図書館や教室で読書活動に親しむ活動に取り組みました。また、給食前の自立活動の場面や、昼食時の栄養注入の場面でもマルチメディアDAISY図書を活用しました。

#### ① 集団での活用

「としょかんへいこう」と題して、図書館へ行き、本を借りたり、読書を楽しんだりする活動に取り組みました。

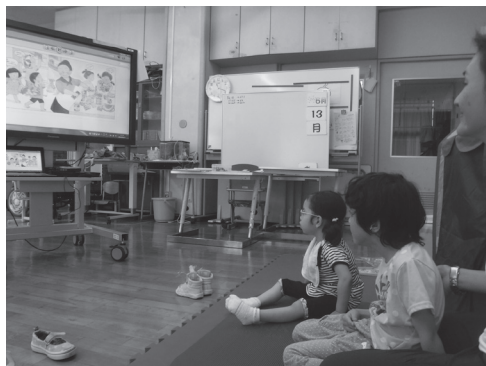
前半は、個別にそれぞれが好きな本を好きなように楽しみ、後半は、集団での読書活動を行いました。その際に、図書館に設置されているノートパソコンを利用して、マルチメディアDAISY図書を再生し、集団での読み聞かせを行いました。

また、図書館が利用できない時には、図書館からマルチメディアDAISY図書を再生できるディスクを借りて、電子黒板を使い、教室でも同様に行いました。

子どもの実態に合わせ、タイトルを選びました。繰り返しのあるお話では、一緒に声に出して読んだり、知っているお話では、次に来る場面を予告したりと、集団ならではの活気のある読み聞かせを行うことができました。次第に、読みたいタイトルのリクエストが出てきたり、マルチメディアDAISY図書で見聞きしたタイトルを個別の時間に選んで読んだりする様子も見られるようになってきました。



図書館で楽しむ



教室で楽しむ

## ②個別での活用

### 1) 自立活動の場面での活用

給食前の身体を休めたり、自由遊びをしたりする時間にも、マルチメディアDAISY図書に触れられるような環境をつくりました。

初めのうちは、教職員が誘い、マルチメディアDAISY図書を楽しむことが多かったのですが、次第に「これ（読みたい）」と言って、マルチメディアDAISY図書の入っているiPadを指さして教員に気持ちを伝え、楽しむ姿が見られるようになってきました。誰かがマルチメディアDAISY図書を楽しんでいると、自然と子どもたちが集まってくることもよくあります。教職員が読み聞かせをする時とは違い、マルチメディアDAISY図書の読み上げ機能を使うことで、子ども同士の世界で、読書を楽しむことができているなど感じます。きちんとした会話をするのはまだ難しいところがありますが、「これ

(見て)！」と、友達の好きなものが出てきたり、挿絵を見たりすると伝えたり、「いっしょ(に読みたい)！」と、誘ったりと、子どもたち同士のやり取りのきっかけにもなっています。

管理の面にも配慮をしながら、昼食前後の自立活動ではなるべく子どもの目の届くところにマルチメディアDAISY図書の入ったiPadを置いておくように心がけました。普段から目にしていることで、身近に感じ、自然と触れることができたのだと思います。



自立活動の時間に



リラックスした姿勢で

## 2) 昼食時の栄養注入の場面での活用

本校には、医療的ケアを必要とする子どもたちがたくさん在籍しています。その中に、食べ物を口から摂取することが難しいため、経鼻チューブや胃ろうなどを使って食事をする子どもたちもいます。注入は、約1時間から1時間半程度かかることが多いです。その時間にマルチメディアDAISY図書を活用しました。

年度初めのころは、お昼の注入中は塗り絵やおもちゃで遊んだり、本を教職員と一緒に読んだりして過ごしていました。対象の子どもは、動いたり話したりすることで腹圧がかかってしまい、注入の滴下が止まってしまうということがよくありました。教職員とのやり取りなどで楽しくなってしまう、気持ちが盛り上がり過ぎてしまうことで、落ち着いてケアを受けることが難しいということもありました。また、医療的ケアを行う看護師は、毎回同じ人とは限らないため、対象の子どもとのやり取りが思うようにいかない時も

ありました。

もともと、読書が大好きだったこともあり、マルチメディアDAISY図書も抵抗なく受け入れることができました。読み上げ機能のおかげで、読めない言葉を「これなに？」と一つずつ聞かずに読書に集中でき、お話を楽しむことができていました。

また、マルチメディアDAISY図書を活用することで、身体の動きや話をすることも減って、腹圧がかかりにくくなったため、注入の滴下が止まることも少なくなりました。さらに、一人で読書を楽しむことができるため、ふだんかわりの少ない看護師とでも、落ち着いてケアを受けることができました。

きっかけは、読書を楽しめたらということでしたが、いざ使ってみると腹圧がかかりにくくなったり、気持ちを落ち着けてリラックスしてケアを受けることができるようになったりと、予想外の効果も見られました。



昼食時の栄養注入の場面

## おわりに

本校が、『わいわい文庫活用術』に実践例を紹介するのは、今年で3回目になります。これまで、個別学習の場面、「こくご・さんすう」の学習での場面、自立活動での場面、医療的ケアでの場面など、さまざまな活用の実践を紹介させていただいています。

それらを通して、マルチメディアDAISY図書の活用方法は、利用する子どもたちや教職員の数だけあるのだなと感じました。いろいろな活用方法を発信したり、共有したりする活動をこれからも続けていくことで、マルチメディアDAISY図書が、読書の選択肢の一つとして当たり前知られている環境になっていくことを心から願っています。今後も、学校生活の中での日常の一場面として活用状況が活性化されていくことに努力していきたいと思えます。